

●稲沢文化財愛護少年団



▲郷土の歴史などを楽しみながら学ぶ活動の一つとして、石をサンドペーパーで削ったり磨いたりして勾玉作りを行いました

●肩こり・腰痛予防教室



▲肩こり・腰痛を予防・改善する体操として、椅子に座りながらできるストレッチなどを実践しました



みんなのひろば

●こどもフェスティバル

エアーマットやトランポリン、人形劇などさまざまなコーナーがあり、多くの子どもたちでにぎわっていました。



▲人型ロボットも登場し、いろいろな動きで子どもたちを夢中にさせていました

笑顔で話そう



家田 操
(梅須賀町在住)

短歌を楽しんでいます

●短歌を作るようになったきっかけ

20年ほど前から母の通院の付き添いをするため病院で待つ時間が多くなり、この時間を有意義に過ごしたいと思い、紙と鉛筆があればできる短歌を始めるようになりました。短歌のカルチャースクールにも通うようになり、その時の講師が岡井隆先生でした。その当時、先生は歌会始の選者を務めていたこともあり、「皇室に年賀状を出すという気持ちで」と歌会始への応募を勧められ、10年ほど前から毎年応募するようになりました。

●歌会始とは

毎年1月に皇居で行われる宮中行事であり、天皇・皇后両陛下など皇族が自ら作った短歌と一般から募集し入賞した短歌（選歌）を披露し合う歌会です。佳作は選歌に次ぐ入賞で、2万946首の応募があり、今年には選歌10首と佳作21首が選ばれました。

短歌は毎年決定する「お題」に沿って

皆さんが日々感じていることを語っていたら、「笑顔で話そう」。今回は、歌会始に佳作入賞した家田 操さんです。

●受賞作品について

「自転車を取りハビリ室にこぎながら花野への道とこころ遊ばす」

ひざが痛み整形外科を受診したところ、エアロバイクをこぐりハビリを勧められました。受賞作品は、単調なりハビリをしながら、きれいな花が咲いている公園へ自転車で出掛けている空想をしていたときに思い浮かびました。

私は、花や自然などを題材に詠むことが好きで、美しい風景を見て感動したときにはノートにその思いを書き留めるようにしています。短歌は、短い文章で日記のように書くことができ、後で読み返すとそのときの思い出がよみがえります。自己反省をしたり向上を願ったりする材料になりますので、心の安定を保つための道具にもなっています。

